

C-3					
主題	コロナ禍における新たな地域貢献への取り組み				
副題	「介護」にとらわれない貢献活動				
キーワード 1	地域貢献	キーワード 2	清掃活動	研究(実践)期間	17ヶ月
法人名・事業所名	社福) 青芳会 特別養護老人ホーム今井苑				
発表者(職種)	岸田全史(副施設長)、石岡康宏(介護支援専門員)				
共同研究(実践)者	なし				
電話	0428-31-3800	FAX	0428-32-3871		
事業所紹介	青梅市にある特別養護老人ホームで昭和 63 年 8 月に開設しました。地域とのつながりを大切に、今井地区の中の施設「今井苑」として親しまれています。近隣の保育園の園児や中学生ボランティアも訪れることもあり、ご利用者と職員や地域の方が家族のような温かい雰囲気の中で生活をされています。				
<p>《1. 研究(実践)前の状況と課題》</p> <p>私達、特別養護老人ホーム今井苑では、社会福祉法第 24 条第 2 項の規定に基づき責務と定められた「地域における公益的な取組」の活動内容が課題となっていた。その理由として、今までは地域の学生ボランティアの受け入れや、地域の市民センターにて介護における座談会を実施していたが、長引くコロナ禍にて中止が相次ぎ、具体的な活動が行えない状態が続いてしまっていたからだ。</p> <p>そんな中、徒歩で出勤する職員から「青梅インターの付近にゴミがすごく落ちていて」という声が聞かれた。その声を受け、地域活動は外部の方を施設内へ招いたり、地域の集合場所へ赴くだけではないのでは、という意見が高まり「介護」という枠にとらわれず、身近な所を綺麗にするという活動があっても良いのではとの意見でまとまり「清掃活動」が始まった。</p> <p>《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》</p> <p>毎月、少人数でも短時間でも良いので、清掃活動を継続して行う事により、活動自体が次のように改善、発展していく事を期待した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清掃活動を継続的に行う事により、綺麗な状態を保ち、ゴミを捨てにくい環境にすることが出来るのではないか。 2. 当法人が主体となり活動する事で、地域の方の賛同者が増え、共に清掃活動を行ってくれるのではないか。 3. 社会福祉法人の地域活動が可視化されることにより、高齢者福祉業界のイメージアップに繋がるのではないか。 					

《3. 具体的な取り組みの内容》

実施期間：令和 2 年 12 月から現在まで実施。

実施日時：毎月第三木曜日 10：00～11：00 の 1 時間。

実施内容：青梅インターから続く道路の生け垣や側溝に捨てられたゴミを回収。

実施する上で、①地域の市民センターへボランティア活動の届出をし「ボランティアごみ袋」の提供を受けた。②社会福祉協議会へボランティア団体の申請を行い、清掃活動のボランティア募集を行った。③どこの団体が活動しているのかを明確にするため、お揃いのビブスを作成し着用した。

《4. 取り組みの結果》

①清掃活動実施前には、長年捨てられてきたゴミが蓄積しており、粗大ゴミも散乱していたが、毎月実施することにより、目に見えてゴミの量が減っていった。ゴミが次第に減っていく事により職員のやる気に繋がった事と、一度、綺麗にすることにより同じ場所にゴミが捨てられにくくなっていった。②社会福祉協議会でのボランティア募集の呼びかけに対し、地域の方 1 名、大学生 3 名が集まり、福祉施設としての役割や取り組み内容を知ってもらうと共に清掃活動が行えた。③お揃いのビブスを着用して活動することにより、団結力が高まった。また、どこの団体が清掃活動を行っているかが明確になり、歩行者からも「お疲れ様」「ありがとう」といった言葉をかけていただくことが出来た。④青梅インター付近の道路のゴミが減ってきた際には、市の清掃リサイクル課に連絡し、青梅インター周辺で特にゴミが捨てられている場所の確認を行った。⑤清掃活動の取り組みが美化団体として市へ推薦され青梅市長より「環境衛生・美化優良団体」として感謝状を頂くことが出来た。

《5. 考察、まとめ》

社会福祉法人の地域貢献として今までは、介護に対する知識や技術の伝達、介護に対する相談など、専門知識の提供が主な役割だと考え取り組んできたが、コロナ禍によりそのすべてが出来なくなり、清掃活動といった初歩的な活動を開始した。結果、①コロナ前は介護に対する悩みや不安にアプローチしていく専門性の高い地域貢献活動であったが、清掃活動という自分たちで継続可能な活動を行う事により、地域とのつながりが強化され、今井苑の存在を知っていただく機会となった。コロナ終息後、長年行ってきた施設内や地域センターでの介護に関する知識技術をお伝えする活動が再開されたとしても、清掃活動での信頼関係が土台となりコミュニケーションが円滑に図れると考えられる。地域の中の施設として地域の方々との交流の新たな入り口が築けたことが今回の大きな実績となった。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

「地域における公益的な取組概要」厚生労働省

《8. 提案と発信》

今後、青梅市内の社会福祉法人とも連携し、地域貢献事業としての清掃活動の輪が広がる事を期待する。相反する内容となるが、最後に私達の願いとしては、地域の方々のゴミに対する意識が改善され、青梅市の玄関口にゴミが無く綺麗に保たれ、私達の清掃活動が不要となる事です。